

ウラン濃縮工場に係る定期報告書

(平成19年9月及び平成19年度第2四半期報告)

1. 運転状況及び主要な保守状況(平成19年9月分)

		平成19年9月
運 転 状 況	RE-1A	※1
	RE-1B	※2
	RE-1C	※3
	RE-1D	※4
	RE-2A	※5
	RE-2B	生産運転中
	RE-2C	生産運転中
主要な保守状況	加工施設保安規定に基づく施設定期自主検査 ・UF6処理設備 ・均質・ブレンディング設備 ・放射線監視・測定設備 ・気体廃棄物廃棄設備 ・液体廃棄物廃棄設備 ・非常用設備 ・貯蔵設備	
(備考)		
※1 RE-1A:生産運転停止中(H12. 4. 3～) ※2 RE-1B:生産運転停止中(H14. 12. 19～) ※3 RE-1C:生産運転停止中(H15. 6. 30～) ※4 RE-1D:生産運転停止中(H17. 11. 30～) ※5 RE-2A:生産運転停止中(H18. 11. 30～)		

2. 放射線業務従事者の被ばく状況（平成19年度第2四半期分）

ウラン濃縮施設

	放射線業務従事者数（人）	線量（mSv）区別放射線業務従事者数（人）					
		5以下 注1）	5を超え 15以下	15を超え 20以下	20を超え 25以下	25を超え 50以下	50を超えるもの
当該四半期	244	244	0	0	0	0	0
年度							

その他施設（研究開発棟）

	放射線業務従事者数（人）	線量（mSv）区別放射線業務従事者数（人）					
		5以下 注1）	5を超え 15以下	15を超え 20以下	20を超え 25以下	25を超え 50以下	50を超えるもの
当該四半期	205	205	0	0	0	0	0
年度							

注1）被ばく線量が検出限界未満の放射線業務従事者を含む

注2）四半期毎の報告月に限り記載する。（年度については第4四半期に限り記載する）

3. 女子の放射線業務従事者の被ばく状況（平成19年度第2四半期分）

ウラン濃縮施設

放射線業務従事者数（人）	3月間の線量（mSv）区別放射線業務従事者数（人）			
	1以下 注1）	1を超え 2以下	2を超え 5以下	5を超えるもの
4	4	0	0	0

その他施設（研究開発棟）

放射線業務従事者数（人）	3月間の線量（mSv）区別放射線業務従事者数（人）			
	1以下 注1）	1を超え 2以下	2を超え 5以下	5を超えるもの
4	4	0	0	0

注1）被ばく線量が検出限界未満の放射線業務従事者を含む

注2）妊娠不能と診断された者及び妊娠の意思のない旨を書面で申し出た者を除く

注3）四半期毎の報告月に限り記載する。

4. 放射性物質及びフッ素化合物の放出状況（平成19年9月分）

ウラン濃縮施設

放射性廃棄物等の種類		測定箇所	平均濃度
ウラン	気体	排気口	N D (Bq/cm ³)
	液体	処理水ピット	N D (Bq/cm ³)
フッ素化合物	気体 (HF)	排気口	N D (mg/m ³)
	液体 (F)	処理水ピット	N D (mg/リットル)

その他施設（研究開発棟）

放射性廃棄物等の種類		測定箇所	平均濃度
ウラン	気体	排気口	N D (Bq/cm ³)
	液体	処理水ピット	N D (Bq/cm ³)
フッ素化合物	気体 (HF)	排気口	N D (mg/m ³)
	液体 (F)	処理水ピット	N D (mg/リットル)

(注) NDは、検出限界未満を示す。

5. 放射性廃棄物の保管廃棄量（平成19年9月分）

ウラン濃縮施設

放射性廃棄物の種類	当該期間の保管廃棄量（本）	累積保管廃棄量（本）
固 体	58	4,522

その他施設（研究開発棟）

放射性廃棄物の種類	当該期間の保管廃棄量（本）	累積保管廃棄量（本）
固 体	0	292

（注）200リットルドラム缶換算本数で示す。

6. 核燃料物質の在庫量（平成19年9月末現在）

ウラン濃縮施設

	天然ウラン	濃縮ウラン	劣化ウラン
在 庫 量	24	191	1,061

その他施設（研究開発棟）

	天然ウラン	濃縮ウラン	劣化ウラン
在 庫 量	1	0	0

（注）1. 六フッ化ウランの在庫量をシリンダ本数で示す。

2. 半期毎の報告月に限り記載する。